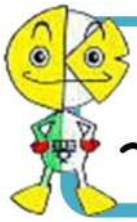
令和元年度　豊島区教育委員会　研究奨励校



主体的・対話的で深い学びの外国語活動に向けて
～外国語活動の授業フォーマットの作成等を通して～

あ い さ つ

校長　北澤　弘幸

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の育成は不可欠です。令和２年度からは、新学習指導要領の本格実施を迎え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実施という課題もあります。これまでも外国語活動を実施してきましたが、本校の教員は「英語そのものへの苦手意識」「授業の組み立て方」「ALT の活用」といった不安をもっていました。その不安を少しでも払拭することができるよう、誰もが外国語活動の授業を組み立てられるよう、授業フォーマットの作成から研究を進めてきました。その一端をご報告いたします。

◇ 研 究 構 想 図

児童の実態

・外国の文化や英語を話すことに興味をもっている児童が多い。

学校教育目標

○健康でたくましい子
○思いやりの心をもち協力する子
◎よく考え進んで学ぶ子

社会的側面

・2020 年度より新学習指導要領が完全実施され、中学年における外国語活動、高学年における外国語科がスタートする。

外国語教育の重点目標

・ALTとの関わりを積極的に取り入れた外国語活動について校内で共通理解を図り、英語によるコミュニケーションを主体とした授業を展開し、児童の主体的な学びを実現する。
・「Let's Try!」「We Can!」を活用して、外国の文化を学習したり日本の文化を紹介したりする活動を通して、国際文化や異文化への理解を深める。

目指す児童像

すずかけ分科会	低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会
・個々の発達段階に応じて、英語に慣れ親しみ、進んで伝え合おうとする児童	・英語に慣れ親しみ、進んで人と関わろうとする児童	・進んで英語を使い、コミュニケーションを図ろうとする児童	・豊かな国際感覚をもち、自分の考えを伝え合おうとする児童

研究主題　主体的・対話的で深い学びの外国語活動に向けて
～外国語活動の授業フォーマットの作成等を通して～

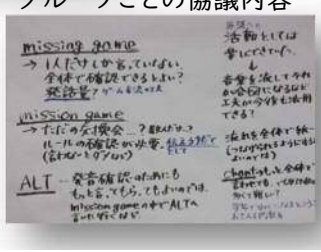
研究仮説　外国語活動の授業において、授業フォーマットを作成し、それに沿った授業を教師が自信をもって行うことで、児童が主体的に外国語の学習に取り組み、コミュニケーションを図ったり、自分の考えを伝えようとしたりすることができるであろう。

研究方法

①分科会提案授業（各学年・特別支援学級の計７回）
②１人１回実践授業（校内研修としての公開授業・計８回）
③教員の英語コミュニケーション研修
④教室環境の整備（授業の流れの掲示、褒め言葉のものさし等）

ワールドカフェ方式の研究協議

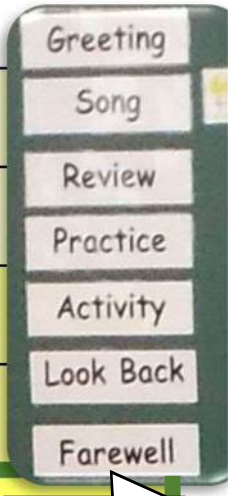
グループごとの協議内容



豊島区立　要小学校

要小　外国語活動の授業フォーマット(例)

I～Ⅵまでのこの流れを基本として、授業を組み立てていく。
学年や単元の内容によって、一部の活動を行わない、順番を入れ替える、2つの活動を組み合わせるなど柔軟に活用していく。



教師も児童も分かりやすい掲示の工夫

Ⅰ.Greeting＆Song

外国語の授業が始まる雰囲気作りをする

（活動例）

曜日・天気気分など

・ALT とあいさつ
・英語の歌　・Today's check

Ⅱ.Review

ICT を活用した、視覚的にも分かりやすいチャンツ

今までに学習したことを振り返らせる。思い起こさせる。

・既習事項の振り返り
・前時の復習　・チャンツ

Ⅲ.Practice

Today's goal(本時のめあて)を知らせ、Key word や Key sentence に十分に慣れ親しませる。

絵で示し、状況をイメージしやすい板書・資料提示の工夫

・Teacher talk
・Today's goal の確認
・Key word や Key sentence の繰り返し練習

Ⅳ.Activity

ヒントをもとに、時間を予想し、尋ね合う活動（今、何時ゲーム）

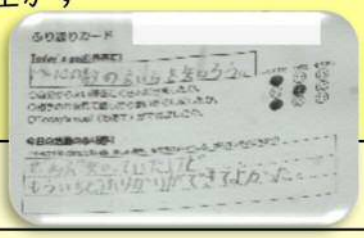
Key word や Key sentence、既習の表現を使って、必然性のある言語活動をさせる。

好きな動物を尋ね合い、カードを交換する活動（カード集めゲーム）

・買い物ごっこ
・夢の時間割を作って発表
・好きな時間の伝え合い
・オリジナルピザを作って発表

Ⅴ.Look back

本時の学習内容を振り返らせ、自分ができるようになったことを確認させたり、Today's goal に対する自己評価をさせ、児童がこれからの学習に生かすことができるようにする。



めあてをもとにした中学年の振り返りカード

・Key word や Key sentence を発話して確認
・振り返りカードの記入

Ⅵ.Farewell

あいさつをして、授業を終わる。

・ALT とあいさつ　・英語の歌

要小　外国語活動の授業作り9つのポイント

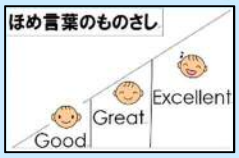
7回の研究授業と、8回の1人1回実践授業を行う中で、次の項目に課題が見付かった。
それらの課題に気を付けて授業改善を進め、9つのポイントとしてまとめた。

担任の役割

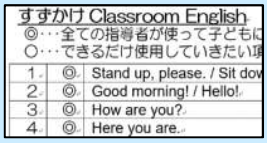
○Today's goal を児童に示し、他教科と同様にめあてを意識して活動に取り組めるようにした。(3年)

○Teacher talkを行う際は、ICT を活用し、児童が場面の状況をイメージできるようにした。(2年)

Classroom



○日常的に使えるような「要小版 褒め言葉のものさし」を作り、授業で活用した。(5年)



○個別指導の中でも活用できるように、Classroom English のリストを全ての指導者で共有した。(すずかけ)

発話量

○スピードやリズム、一度に発話する人数を変化させながら Key sentence を繰り返し練習させることで、飽きることなく多くの発話できるようにした。(3 年)

○学習カードにシールを貼らせることで、やり取りをした回数を可視化し、学習意欲を高めた。(すずかけ)

○ALT の発音を真似て繰り返し発話し、表現に慣れ親しませた。単語の強弱や言葉のリズムを意識させるために、手拍子をしながら楽しく活動させた。(1年)

○ジェスチャーを取り入れることで、児童が意欲的に繰り返し発話できるようにした。(4年)

ALT の活用

○英語を使う姿のモデルとして、担任とデモンストレーションを行った。(5年)

○Activity の中で、児童と一緒に活動し、児童の意欲を高めた。(1年)

交流・コミュニケーション

○コミュニケーションを図る手段として「Speak up」「Eye contact」「Smile」の3つのポイントを掲示した。(1年)

○対話型のTeacher talk を行い、児童の意欲を高めた。(4年)

○めあてに即して、自分の好きなものを友達と伝え合うようにさせた。(2年)

○本時の Key sentence だけでなく、今までに学習した”Do you like～?” ”Can you play～?”などの既習事項も活用し、友達と英語でコミュニケーションをさせた。(6年)

必然性

○他教科・領域(生活単元学習)の買い物学習と関連付け、商品の作成や看板作りなどの準備も児童が行ったことで、意欲的に英語活動にも取り組ませることができた。(すずかけ)

授業の流れ

○英語の歌(Hello song)を、日本語から英語への切り替えや英語に慣れ親しむ手段として、授業の始めに取り入れた。(3年)

○Activity の前に繰り返しチャンツで発話練習を行い、自信をもって友達と交流できるようにした。(2年)

○振り返りカードを使用し、新しい学びや気付きを確認したり、互いの取組を認め合ったりすることができるような時間を設けた。また、それらを英語ファイルに蓄積することで、自身の成長を実感させることができた。(3年)

板書

○Key sentence を児童に示し、それを意識して活動に取り組めるようにした。(6年)

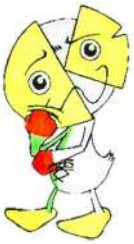
○文字ではなく、絵で Key sentence の内容が理解できるようにした。(2年)

気付き

○Teacher talkを繰り返し行った。2回目や3回目は、Key sentenceを強調する、その前後の部分を省くなどの工夫をし、Key sentenceに気付きやすくした。(すずかけ)

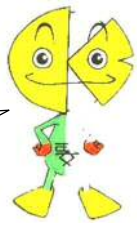
○活動の中で様々な国の時刻に触れさせたことにより、時差について気付かせることができた。(4年)

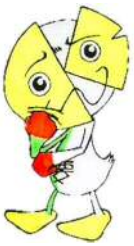
要小　外国語活動　Q&A



Q. Teacher talk とは何をするのですか。

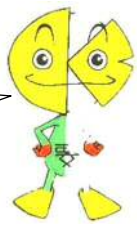
A.要小では、目的や場面、状況を共通理解するため、Key sentence や Key word を使った短い会話を担任と ALT で行いました。会話を行った後、児童に「何が聞こえたか」「どんなことを話していたか」を問いかけることに気を付けました。





Q.「Practice」と「Activity」の違いは何ですか。

A.要小では、「Practice」は、児童がその日の Key sentence や Key word を繰り返し発話し練習することでその表現に慣れ親しむ活動、「Activity」は、その慣れ親しんだ表現をもとに、自分の思いや考えを伝え合う言語活動と位置付けました。



◇Practice として行う活動例
～発話量の確保を重視～　発話量

・クラスを半分に分けての発話練習

・かるたゲーム
ALT が発話した英語を繰り返し、そのカードをとる。

・キーワードゲーム
ALT が話した英語を繰り返しながら、キーワードが出てきたら、机上のアイテムをとる。

◇Activity として行う活動例
～自分の思いや考えを伝え合うことを重視～

・カード集めゲーム（低学年）　交流・コミュニケーション
好きな動物を尋ね合い、カードを交換する。

・おはじきゲーム（中学年）　必然性
１人が好きな数のおはじきを取ってカップに入れ、もう１人が数を予想し、２人で数える。

・夢の時間割の紹介（高学年）
グループの中で自分が作った夢の時間割を発表する。

研究の成果と課題

成果

平成30年度（研究前）	令和元年度１学期（研究初期）	令和元年度2・3学期（さらなる改善）
【教師の実態】 △担任主導で授業をすることへの不安。 △英語の授業の流れが分からない。	○１単位時間の授業フォーマットの作成 <教師> →どの学年でも、担任主導で授業ができるようになった。 →授業の準備がしやすくなった。 <児童> →見通しをもち安心して学習に取り組めた。	○9つのポイントを意識 →より効果的な授業改善ができた。 ○Teacher talk の導入 →Key sentence や Key word を活用する場面を児童と共有でき、児童の学習意欲の向上、主体的な学びにつながった。

課題

①学年や学習内容に合わせた授業フォーマットの検討	・外国語活動の授業時数が少ない低学年での「Review」の扱い ・「Practice」と「Activity」の時間配分　等
②ALT との連携	・児童のコミュニケーションのための ALT の効果的な活用 ・ALT との打ち合わせ時間の確保、効率的な打ち合わせ、事前の準備　等
③読むこと・書くこと	・音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすることの取り入れ方　等

研究をご指導いただいた先生　豊島区教育委員会教育部指導課統括指導主事　丸山順子様